

報道関係者 各位

発表日	令和7年11月26日
照会先	九州厚生局 健康福祉部 地域包括ケア推進課
	課長 増岡 寿
	地域包括ケア推進官 百枝 伸祥
直通電話	092-432-6784

九州・沖縄地域共生社会推進フォーラムを開催します

地域包括ケアシステムの構築をはじめとする地域共生社会の実現に向けた取組が大きな課題となっている中で、九州厚生局では、管内の県、市町村、関係団体、他省庁等と連携した取組を推進しているところであり、今後、九州・沖縄全域の市町村等における取組を加速させるため、標記フォーラムを下記のとおり開催します。

記

1. 開催日時 令和7年12月12日（金）13時00分～16時30分
2. 開催場所 九州厚生局会議室
（福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-35 博多プライムイースト2階）
3. 開催形式 オンライン配信（Zoom）
4. 対象者 九州厚生局管内の県職員・市町村職員・社会福祉協議会職員・
地域での支え合い活動に関心がある方・その他関係者等
5. プログラム
（九州厚生局 HP: https://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kyushu/newpage_00806.html）
 - （1）九州厚生局長挨拶（13時00分～13時10分）
 - （2）行政説明（13時10分～13時30分）
「地域共生をベースに考える認知症の取組」
野村 晋 氏
（厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課
認知症総合戦略企画官（併）地域づくり推進室長）
 - （3）基調講演（13時30分～14時00分）
「分野横断的な地域包括ケアの推進」
蒲原 基道 氏（元厚生労働事務次官）
 - （4）地域共生社会推進賞表彰式及び受賞団体の取組発表
（14時10分～15時30分）

受賞者及び取組概要については別紙のとおり。

(5) シンポジウム (15 時 40 分～16 時 30 分)

・ファシリテーター

蒲原 基道 氏 (元厚生労働事務次官)

・シンポジスト

鴻江 圭子 氏 (特別養護老人ホーム白寿園施設長)

有村 智明 氏 (鹿児島県錦江町副町長)

末綱 智子 氏 (高平おばちゃんズ代表)

衛藤 美恵子 氏 (高平おばちゃんズ副代表)

6. 取材について

(1) 取材申込について

別添「取材依頼文」にて、令和 7 年 12 月 10 日 (水) までに照会先へメールにてお申し込みください。メールアドレスは「取材依頼文」に記載しています。

(2) 当日の取材及び写真撮影について

当日は、表彰式及びフォーラム終了後の記念撮影のみ撮影 (動画を含む) が可能です。

但し、受賞者等への取材を希望される場合は「取材依頼文」の「取材内容」欄に、その旨記載してください。

(3) オンライン配信について

オンライン (Zoom) での視聴を希望される場合は、URL を別途ご連絡しますので、令和 7 年 12 月 5 日 (金) までに照会先へお申し出ください。

なお、Zoom 画面のビデオ撮影及び録音をすることはできません。

(参考)

(1) 「地域共生社会推進賞」九州厚生局長表彰について

地域共生社会は、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を指しています。

地域共生社会推進賞は、九州・沖縄管内の地域共生社会の実現に向けた取組 (地域包括ケアシステムの取組を含む。) が先駆的又は他の模範となるものであり、また、今後も続けて努力していくと認められる市町村や団体を九州厚生局長が表彰し、その取組内容等を広く発信することにより、地域共生社会の更なる普及と推進を図ることを目的として、2 年に 1 回実施しているものです。

(2) 地域包括ケアシステムについて

地域包括ケアシステムは、要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制をいいます。

地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。

賞	実施主体	事業名	取組概要
大賞	鹿児島県錦江町	認知症フレンドリーな 錦江町づくりプロジェクト	「安心して認知症になれるまち錦江町」を目指し、次の3つの柱で取組を進めている。 ①全ての町民さんに認知症や認知症の人に対するこれまでのイメージを変えていただく（普及啓発）。 ②認知症があっても、やりたいことにチャレンジし、社会や当事者同士でつながっていける場所・仕組みをつくる（認知症カフェ）。 ③認知症があっても、少しでも生活しやすく、使いやすいまちに変えていく（まちづくり）。
部門賞	熊本県菊陽町	菊陽町精神障がいにも対応した 地域包括ケアシステムの構築	精神障がいのある当事者と共に、関係機関、行政を交えて地域課題の把握や、今後の取り組みに向けた協議を行い、地域包括ケアシステム及びネットワークの構築を行うもの。

【団体部門】

賞	実施主体	事業名	取組概要
大賞	高平おばちゃんズ (大分県速見郡日出町)	元気な山里！支え合う 豊かな暮らしの高平区	山間地域「高平区」は、高齢化率55%。地域の憩いの場であった学校が休校となり、みんなで会い共同作業を行う場が喪失された。 地域みんなが安心して暮らし続けられる高平区を創ろうと、高平おばちゃんズが立ち上がり、配食や通いの場を通じ生活のお困りごと解決を行う支え合い活動を実践。高校生等の若い世代も活動を後押しし、皆が楽しみながら地域活動を盛り上げている。平均年齢74歳の素敵なお婦人方。
優秀賞	特定非営利活動法人 なごみの家 (福岡県福岡市)	認知症になっても活躍できる居場所づくり －「ばあちゃん喫茶」等を通じた地域共生の実践－	認知症のある高齢者が接客や調理で活躍する「ばあちゃん喫茶」、こどもと高齢者の世代間交流を促す「なごみ食堂」、住民同士が支え合う「しかたの茶の間」など、誰もが役割をもてる地域共生型の居場所づくりを実践している。
部門賞	特定非営利活動法人 抱樸 (福岡県北九州市)	『おんなじいのち』を目指す 互助会活動	「助けたり・助けられたり」という関係をつくるため互助会を運営。葬儀をはじめ、バスハイクや誕生日会、お見舞いなどを行なっている。参加者は、ホームレス・生活困窮の元当事者のほか、ボランティア・スタッフ・地域住民等で、現在約280人。
部門賞	特定非営利活動法人 宅老ちよだひまわりの会 (佐賀県神埼市)	地域共生ステーション	地域共生社会の実現のため、「困ったときはお互い様。助けられたり、助けたり。」の想いのもと、30年にわたり日常の困りごとに対する生活支援や地域の居場所づくり等地域に密着した支えあいの活動を続けている。
部門賞	社会福祉法人 糸満市社会福祉協議会 (沖縄県糸満市)	地域の特性を活かし食を通じた地域と 企業のつながりとたすけ合いの場づくり	沖縄県における子どもの貧困対策が大きな社会問題となるなか、令和2年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一斉休校の実施や失業・休業者などの増加に伴い、社会活動が停滞し、地域活動や人の関わりが希薄となり、子どもに対する食支援や特例貸付など生活困窮者に対する生活支援の強化が図られた。そうしたなか、糸満市社会福祉協議会では企業や支援団体から多くの食料品等の提供を頂き、食を通じた支援活動のサイクルが生まれた。 新型コロナウイルスの収束以降も、提供頂く企業等の想いを継続させ、つながりの輪が途絶えぬよう糸満市社会福祉協議会として手段と目的の整理を行い、提供先を個人から福祉事業所等にも拡充し、食支援の取組みを通して関わった企業や事業所とのつながりのなかから協力体制を構築しながら、福祉教育に係る協力者の人材確保や地域住民と一体的に取り組むイベントの実施、地域課題の解決に向けた話し合いの場への参画などを推進している。